（管理規則第3条実施要領 別紙様式）

No.（1）

2026 年度（令和 8 年度）学校評価自己評価表

駅家中学校区	校番 61	福山市立駅家西小学校
	最終更新日	2026 年（令和８年）４月 1 日

Ⅰ 福山市

めざす姿	すべてのこどもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現

Ⅱ 中学校区

前年度学校運営協議会（学校関係者評価）の主な内容

各校の授業の様子や学校評価を元に話し合いを行い、教職員の勤務の状況等も踏まえながらよりよい中学校区を目指した協議を行うことができた。CS開始に向け、これまでの取り組みを活かし、具体的な実践を考えていく。

児童生徒の現状

○進んで挨拶をする児童・生徒が増えた。
○基礎学力や家庭学習の定着が課題であり、「書く力」が十分でない。
また、学力差が大きい。
○中学卒業時の姿をイメージして学びを進める力が必要
○メディアの使用時間等、自己コントロール力が必要である。

育成する資質・能力	課題発見・解決力　コミュニケーション力　挑戦する力
めざすこども像（義務教育修了時の姿）	～よりよく生きる～ ○自律…自分で考え、判断し、決定して行動できる。 ○尊重…多様性を認め、自分と他者を大切にできる。
中学校区として統一した取組等	○「主体的な学びによる思考力・判断力・表現力の育成」を研究テーマとする。 ・学力調査から課題解決に向け具体的な手立てを研究し、授業を改善する。 ・自分の考えや思いを深める交流の場を作り全員参加の授業づくりを目指す。

Ⅲ 自 校

学校教育目標

確かな学力と豊かな感性に培い、仲間とともにやりぬく子どもの育成

現 状

<児童生徒>
○自然と対話が生まれ共に考える姿や、学習課題に向き合い考える姿が多く見られる。
▲他者に自分の考えを伝えることには抵抗感を感じる児童が見られる。
まずは、友達と対話することの良さを感じられるようにすることが必要である。
○縦割り班そうじなどの異学年交流を通して、かかわりが増えたことで、互いを理解したり、思いやりのある言動が増えたりしている。
○体を動かすことの楽しさを感じている児童は多く見られる（昨年度末 91％）
▲「運動が嫌い」という児童が数名見られ、運動の良さや楽しさをさらに感じる取組が必要である。
<授業>
○学力調査分析→授業改善の重点→教材研究（月2回の学年会）という流れで、授業づくりを進めた。対話的な学びにつながるペアトークの充実を図り、その目的や機会、内容を検討して教材研究や授業づくりを進めた。
▲ペアトークを一層充実して、対話を通して学びが深まるよう、授業改善を図る必要がある。
○問題データベースを活用し、スキルタイムや授業において繰り返し学習に取り組むことで、算数科（知識・技能）における通過率 40％未満の児童の割合は減少した。
▲「分散学習」の視点を取り入れ、スキルタイムや授業の中で計画的に繰り返し学習を進める。
▲特別支援の観点から、通常学級において配慮が必要な児童への手立てが必要である。

育成する資質・能力		課題発見・解決力	コミュニケーション力	挑戦する力
めざすこども像	低	○身近な問題に対して疑問をもち、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割に責任をもつ力 ○自分の考えを伝える力	○学級・学年や家族の一員であることを自覚し、主体的に学ぶ力
	中	○地域や社会の問題に対して、もっている知識を関連付けて考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任をもったり、助け合ったりする力 ○自分の考えを伝え、相手の考えを比較してしながら聴く力	○学校や地域の一員であることを自覚し、主体的に学んだりチャレンジしたりする力
	高	○様々な問題に対して、もっている知識や経験等をフル活用して考え、自分なりに導き出した答えを表現・実行する力	○自分の役割や言動に責任をもち共感的に聴きながらアイディアや知識を共有し深める力	○地域・社会の一員であることを自覚し、持続可能な社会に向け、主体的に学んだりチャレンジしたりする力
	1年	○目と耳と心で聴くことができる。 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。	○目と耳と心で聴くことができる。 ○言葉・数・情報を用いて根拠をもって表現できる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。
	2年	○一人一人が自分の考えをもって他者と対話することができる。	○他者と話し合い考えを比較し統合しながらより良い考えを創造できる。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。
	3年	○日常生活の中に課題を見つけ出し自分の知識を総動員して答えを導き出す。	○他者との関係を協調的に築きながら自分の考えを発信し仲間と課題解決する。	○自分の人生を切り開いて豊かな未来を創ろうと学び続ける態度を養おうとしている。

研究	テーマ	「みんなで分かる」喜びを味わう、主体的・対話的で深い学びの創造 －ペアトークを通した、新たな学びや気付きのある深い学びの追求－
	内容等	①「新えきやにしモデル」による授業づくり (え)らぶ（自己選択・自己決定力）(き)づく（新たな学び）(や)りぬく（追求）仲間と共(に)（協働）はっ(し)ん（発信力） ⇒児童と共有し、めざす授業やつけたい力を、児童が意識して学ぶ授業づくりを推進する。 ② ペアトークの充実による対話を通して学びを深める授業づくり ③ 児童理解<アセスメント>を生かした授業づくり ④ 学習内容の習熟・定着を図る繰り返し学習の充実－問題データベースの活用と分散学習－
めざす授業の姿		対話を通して学びを深める授業－聴き合い・伝え合い－

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家西小学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日) □指標に係る取組状況	中間評価 プロセス評価	中間評価 達成評価	中間評価 改善方策	最終評価(2月末) □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	最終評価 プロセス評価	最終評価 達成評価	最終評価 総合評価	最終評価 改善方策
1	主体的・対話的で深い学びを通した学力の定着	★	新規	対話を通して、様々な視点での考え方を交流し、基本的な「見方・考え方」を働かせる深い学びの実現を達成する。	・1時間の授業の中に、児童が対話したくなる問い（深めるトーク・広げるトーク）を1回以上設ける。 ・既習の習熟を行うために、授業やスキルタイム、家庭学習に東京書籍のデータベースを活用し、分散学習を図る。	・児童アンケート「友達とペアトークをすることで、新しい考えや気付きがありますか。」肯定的評価85%以上 ・算数科単元末テストの知識・技能において40%未満の児童10%未満、かつ、70%未満の児童20%未満									
1	児童が安心、安全を感じることのできる学校づくり	★	新規	児童の学校満足度を向上させる。	・縦割り班掃除や、縦割り班遊びを実施することで、異学年交流の充実を図る。 ・毎学期のいじめアンケート、面談、早期対応をすることで、児童の安心につなげる。 ・特別支援教育の観点をベースに教育活動を行う。	・児童アンケート「学校には、困った時に、話を聞いてくれたり、優しく声をかけたりしてくれる人がいますか」肯定的評価85%以上									
1	児童がいきいきと学べる学校づくり		新規	自ら体力づくりに取り組み、運動やスポーツをすることの楽しさや良さに気付くことのできる児童を増やす。	・導入での運動遊びや体力づくりカードの活用、職員の握力掲示等を行うことで、目的意識をもった活動と自己目標	・握力、上体起こし、50m走の記録が県平均を超えている、または、前学期よりも自分の記録が伸びた児童80%以上									

					の達成を図る。 ・委員会遊びを行うことで、運動することの楽しさや良さを実感する児童を増やす。	・児童アンケート「運動やスポーツをすることは好きですか」肯定的評価85%以上									
1	地域・保護者に開いた学校づくり		新規	地域・社会と協働する教育活動を展開する。	・地域・社会と協働する活動（①地域・社会と学ぶ活動、②地域・社会に働きかける活動）を年間1回以上位置付けてカリキュラムマネジメントを行う。	・保護者アンケート「地域・社会とかかわるこどもの活動がよく分かる」肯定的評価80%以上									
1	教職員が元気で、児童に向き合える学校づくり		新規	教職員一人一人が自らの業務を管理し、働き方を工夫する。	・共有ドライブや校務支援等を用いてデータやスケジュールを共有し、一人一人が計画を立てることで、見通しをもって業務を行う。	・超過勤務45時間以内の教職員85%以上									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。